



2019・6・11

第 341 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自民党が国民に挑戦！参院選公約に改憲

「早期の改憲めざす」と明記

自民党は 7 日、夏の参院選の公約を発表しました。①外交・防衛、②強い経済、③安心社会、④地方創生、⑤復興・防災、⑥憲法改正一の 6 本柱を打ち出しています。憲法については次のとおり（「日経」）。

「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の 3 つの基本原則をしっかりと堅持し、初めての憲法改正への取り組みをさらに強化する。改正の条文イメージとして（1）自衛隊の明記（2）緊急事態対応（3）合区解消・地方公共団体（4）教育充実一の 4 項目を提示している。憲法改正に関する国民の幅広い理解を得るため、党内外の議論をさらに活発にする。衆参の憲法審査会で国民のための憲法論議を丁寧に深める。憲法改正原案の国会提案発議をし、国民投票を実施し、早期の憲法改正を目指す」

改憲阻止に向け参院選が山場

【京都府／9条・京都の会・他】参院選に向け「市民と野党の共闘」で 9 条改憲を断念させようと、安倍 9 条改憲に反対する京都の市民団体などが 1 日、京都市で学習講

演会を開き 400 人が参加しました。主催は、憲法 9 条・京都の会、安倍 9 条改憲 No. 1 市民アクション・京都、9 条改憲に反対し安倍内閣の退陣を求める京都アピール実行委員会、同志社平和の会です。

渡辺治・一橋大学名誉教授が講演し、「マスコミは改憲が困難になったように書くが、安倍首相は決して断念していない。参院選は改憲勢力が 3 分の 2 を維持して改憲を強行するのか、安倍政権を倒して改憲の息の根をとめるのか大きな山場だ」と指摘。そして、自民党改憲案の危険性を告発するとともに、市民連合と野党が安倍 9 条改憲反対などの共通政策を打ち出した前進面を強調し「3000 万人署名を軸に、地域を根城に改憲を阻もう」とよびかけました。

岡野八代・同志社平和の会代表（同志社大教授）が開会あいさつし、各団体が発言。

京都民医連あすかい病院の中川裕美子院長（九条の会アピールを支持する京都医療人の会）は、従軍看護師だった祖母から 1 歳の子どもを残し戦地に行った体験を聞いたことを紹介。20 代の子どもに自衛官募集の案内が届いたことにも触れ「安倍政権はいろんな手で若者をねらってくる。微力な

がら協力していきたい」と述べました。

自治体が自衛官対象者名簿提供

【北九州市小倉地域／九条の会・他】北九州市が自衛官募集のために対象者を抽出する新システムを導入したことに抗議し、来年度以降の中止を求める要請行動が31日行われ、30人が参加しました。

要請したのは北九州市・小倉地域の九条の会、平和委員会、憲法共同センター、地区労、全教、子どもと教育のために手をつなぐ会、憲法集会実行委員会など17団体。

市はこれまで自衛隊による住民基本台帳の全市民の閲覧は認めていましたが、今年度から18歳の男性に限定した情報を抽出、閲覧させました。北橋健治市長は記者会見で「国会の議論をうけ」検討を始めたと言っています。

小倉旭区平和委員会の高木健康会長は、安倍首相が憲法改悪の理由に自治体の協力拒否をあげていることをふまえ、「市まで安倍首相に『忖度（そんたく）』するのか。自衛官の応募減少は戦争法強行などによる自衛隊任務の変化を市民が受け入れないからだ。自衛隊からのダイレクトメールに抵抗のある市民もいるなか、市が国に便宜をはかることは認められない」と語りました。

要請では、「憲法9条への自衛隊明記が論議されている時期に、市が自衛隊に協力するのはあぶない」などの声があがりました。

紙・電子媒体での対象名簿提供やめよ

【山口県宇部市／憲法9条の会うべ・他】宇部市の憲法9条の会うべ、総がかり行動うべ実行委員会、宇部地域労連は3日、自

衛官募集のための自衛隊山口地方本部からの依頼に応じて紙・電子媒体で市民の名簿を提供しないよう、久保田后子市長に申し入れました。この日開かれた同市の個人情報保護対策審議会では、紙・電子媒体では提供すべきではないとの結論をだしました。

同市はこれまで閲覧で対応しており、紙・電子媒体での提供が同市個人情報保護条例上、許されるかが焦点となっていました。同条例は「個人情報を外部へ提供してはならない」とし、例外として「法令に定めがあるとき」や「公益上の必要」などがあるときを定めています。

審議会に先立つ申し入れには、「総がかり行動」の藤本一規事務局長らが参加。対応した穂積隆敏総務財政部参与らは、審議会で委員に伝えるなどと答えました。

申し入れ団体のメンバー数人が傍聴する中で開かれた審議会では、自衛隊からの依頼は法令上の定めも公益上の理由などもあるとは言い難く、紙・電子媒体で提供すべきではないとしました。

藤本氏は「市長は審議会の結論を重く受け止め、紙・電子媒体の提供をするべきではない」と語りました。

改憲派も街頭で自衛隊宣伝のビラまき

【群馬県高崎市】高崎駅東口ペデで「ありがとう自衛隊」チラシ配布キャンペーンが頻繁に行われています。5月18日、土曜行動と同じ場所でもおこなっていました。10人弱、チラシは「憲法には自衛隊の存在が規定されていません」「ありがとう自衛隊・憲法に自衛隊を明記しよう」の2枚。

チラシは憲法への「自衛隊の明記は何を

意味するか?」を説明しています。「①自衛隊の法的地位が確保される。②国防が国の制度の中核に据えられる。③国民ぜんたいが国防を『義務として』意思表示することになる。④違憲論者の『空想的平和主義』論無くなる」(特定保護法廃止を求める高崎市民の会「あきらめない」第66号)

自衛隊駐屯の地域で各戸訪問

【青森県／下北地域九条の会】むつ市など1市1町3村で活動する下北地域九条の会は、18年2月以来現在までに、延約200人が2人1組でこつこつと各戸を訪問、3000万人署名に取り組んでいます。5市町村全地域を回りました。

同地域には海上自衛隊大湊地方隊が置かれ、自衛隊員やその家族も多いこともあり、街頭やスタンディングだけでなく、各戸訪問での対話を特別に重視しています。その中で、家族に自衛隊員がいて、心配だという人とも対話になっています。

こうした九条の会などの活動がじわり広がり話題になっています。最近では日本会議が集会を開くなどの動きもあり、改憲をめぐる激しい対決状況も、生まれています。

「これからもかんばらなければ」と決意が表明されています。

6月4日には、この間の成果である署名2262人分が事務局に届けられました。(全国市民アクション「速報版」6月5日号)

3000万署名全国で達成するまで

【横浜市青葉区／青葉台九条の会】前号でご報告のとおり、3000万署名は会の自主目標3000筆を達成し、5月28日の役員

会で3143筆を確認しました。今後の運動について役員会で検討した結果、やはりこの3000万署名を中心にすえて、①安倍を倒すか、②全国で3000万をやりきるまで、続けることにしました。

およそ1年半にわたる署名活動を各自総括し、新たな可能性を開拓できないだろうか。もし各自の活動分野として残された可能性がないなら、駅宣など全体としての活動をさらに深化させることを検討するしかありません。皆さんのご意見を。(「青葉台地域九条の会ニュース」No.141)

自衛隊任務の変貌を考える

【岐阜県／岐阜・九条の会】岐阜市で5月28日、「自衛隊の軍事化」についてどう思うか考えてみよう」とつどいが開かれ、17人が参加しました。主催は「岐阜・九条の会」サロン9条例会。

代表世話人の吉田千秋さん(元岐阜大学教授)が開会あいさつで、「兵器爆買い」「イージス配備」「トランプ、護衛艦『かが』視察」など、各紙が取り上げた記事を紹介。

「日本を守る」といいながら、「日本を盾にする」戦略であり、極めて危険だと問題点を指摘したあと、「イラク派兵」「南スーダン武力衝突」など、自衛隊任務の変貌を追及したDVDを視聴しました。

討論では、男性が「F35ステルス戦闘機を105機も追加して何に使うのか」、女性は「自衛隊幹部は憲法の枠内を理解し、ギリギリのところで命を守った」、「自衛隊員募集で自治体を締めつけるのは許せない」などの意見が出され、「おもてなし」が前面に出た日米首脳会談を批判しました。

安倍政治がもたらす危機考える

【鳥取県境港市／境港九条の会・他】

鳥取県境港市で1日、境港九条の会、護憲フォーラム県西部、境港革新懇、憲法を暮らしに生かす市民の会の4団体が元NHK記者の相沢冬樹氏を招いて講演会を開き、約200人が参加しました。『安倍官邸VS・NHK』を書いた相沢氏は「記者人生32年森友事件から考える報道の使命」と題して講演しました。

護憲フォーラムの大森英一代表は「強権的な現政権が権力を使って何をしているのか、平和憲法を守る立場から考えるきっかけにしたい」とのべました。

革新懇の田中文也事務局長は「日本は過去21年間で賃金が主要国中で唯一減るなど悪政続きだ。市民と野党の共闘で政治を転換しよう」と呼びかけました。

若い人へ、私の署名の働きかけ

京都・改憲NO左京区市民アクション

島津 瑠美

私が3000万人署名に取り組み始めたのは、2018年8月ですので、署名が始まりましてから、随分日数が経ってからでした。理由は、公文書改ざん、国会での嘘の答弁を平気でする安倍首相が、請願書を真摯に受け止めたりするとは思えなかったからです。しかし、国民が民意を示すことができるのは、選挙と請願しかありません。そう思い至りましてから、署名活動を始めました。

戦争する国になれば、若い人たちが、一

番犠牲になりますので、若い人を重点的にとることにしました。高等学校、大学の正門前でとりました。まずは、挨拶から始め、私の簡単な自己紹介をします。そして、今の政治状況を丁寧に説明します。理解を深めるために、政治、戦争、憲法についての文章と、戦場を想像して詩を書きました。「何故、戦争はなくなるのでしょうか」「自衛隊に国民を守る義務はありません」「この日本は今、危機的状況にあります」などの文章を、学生さんたちに説明しながら配布します。そして、それらの内容を、解り易くするために、漫画にしました。

彼等は、一般の人より知識があります。それに加えて日本が戦争する国になれば、自分たちが、戦争させられることも、知っているのです。ですから、私に、「戦争だけはしたくない。戦場になんか行きたくない。戦争を阻止してください」と訴えてくれます。そして、頑張ってくださいと激励までしてくれることも、多々あります。

高校生たちの反応は大変素早いです。特に、部活帰りの男子高校生たちは、7人8人とグループで歩いているので、誰かが、「知ってる、知ってる。これは大切な署名だから、みんな書こう」と言ってくれれば、一度に多くの署名が集まります。そればかりか、先輩、後輩まで呼んでくれるので、1分に1人の早さで署名が集まるのが時としてあります。

大学生は、その点慎重ですが、日を迫る毎に署名してくれるようになっていきます。

6月18日3000筆達成しました。これちょうど1/10000です。現内閣が改憲を断念するまで頑張ります。